

授業科目名	生涯学習概論				
担当教員名	青嶋 絢				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アート・コーディネーター、公共文化施設、教育関連施設におけるアートプロジェクト、ワークショップ等の企画運営(全14回)				

授業概要

現代社会において生涯学習における文化芸術活動は大きな位置を占めており、文化芸術振興と「学びの場」は互いに関連しあう分野である。特に美術館、博物館、公共文化ホールなどの文化施設では、より幅広い層にアプローチする「生涯学習」が求められる時代である。本講義では、生涯学習の歴史的意義を概観し、文化芸術の現場でより実践的な「学び、体験の場」をどのように作り出すか、実践とディスカッションを通じて考察する。急速に変化する21世紀の複雑な社会状況の中で、「継続して学び続けること」の重要性を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

生涯学習の歴史的背景と教育的意義について学ぶ講義に加え、美術館・博物館等の文化施設における生涯学習事例を研究する。
文化芸術の現場で「学び、体験の場」がどのように設計されているか、実践とディスカッションを通じて考察する。

目標：

生涯学習の理念、歴史的背景を理解することで、文化芸術の現場で働く人材として必要な知識を習得することができる。
ワークショップの企画立案をグループワークで行い、実践に必要な知識・能力を習得することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP9. 役割理解・連携行動

情報収集力・分析力を養うことができる
主体的、計画的に取り組む力を養うことができる
問題解決のための行動力を養うことができる
他者と協力してグループワークを行うことができる。

学外連携学習

有り (連携先：未定)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上の出席者を成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合

授業内小レポート

30%

グループ課題に対する取り組みの貢献度

40%

試験(期末レポート)

30%

評価の基準

：生涯学習に関する授業内容についてよく理解し、自身の意見を文章で述べているかを評価する。

：グループ課題に対する意欲的な参加姿勢を評価する。

：授業を通して学んだことを元に、与えられたレポート課題に対して必要な研究・分析を行い、独自の意見を文章で述べているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに適宜資料配布・文献紹介を行う。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
1・2回程度、学外学習を実施し、参与観察を行う、学外実習の日程に応じて授業計画を一部変更する場合がある。
授業に積極的に参加し、グループディスカッション、学外実習に参加が可能であること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業前後、授業中以外の質問は、メールで受付ける。メールアドレスは授業内で周知する。

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	イントロダクション：生涯学習と文化芸術 生涯学習の理念を理解し、その中で文化芸術の担う役割について考える。	講義内容の復習：生涯学習の理念と文化芸術の担う役割について理解する 4時間
第2回	生涯学習の歴史的意義と現代の動向 日本に生涯学習が導入された経緯を学び、現代の生涯学習のあり方を国内外の事例から考える。	講義内容の復習：日本における生涯学習導入の経緯、国内外の生涯学習事例をリサーチする。 4時間
第3回	文化施設における生涯学習：博物館・美術館・公共文化ホールの取り組み 実際に博物館、美術館、公共文化ホールで行われている生涯学習プログラムの事例を研究する。	講義内容の復習：ワークショップ・レクチャー等の文化芸術プログラムの事例リサーチ 4時間
第4回	生涯学習と地域文化振興：コミュニティー・アートとアーティスト・イン・レジデンス 生涯学習における地域文化振興の事例について学ぶ。	文化ツーリズム、コミュニティー・アート、アーティスト・イン・レジデンス等の事例リサーチ 4時間
第5回	ワークショップのケーススタディー①：参与観察 ワークショップのケーススタディーを行い、実際の事例について学ぶ。	事例研究：参与観察のレポートを作成する。 4時間
第6回	ワークショップのケーススタディー②：分析・考察 ワークショップのケーススタディーを行い、与えられた事例を元に分析・考察する。	事例研究：参与観察を元にグループワークで事例の分析考察を行う。 4時間
第7回	ワークショップのケーススタディー③：グループ発表 これまでのケーススタディーを元に、グループで発表を行う。	グループ発表のまとめ資料を作成する。 4時間
第8回	実践編：模擬ワークショップ ① 参加者として体験する 学芸員・アーティストによるレクチャーおよび模擬ワークショップの実施。 中間ルブリックの実施、学生ヘフィードバック。	模擬ワークショップを参加者の視点から検討し、レポートにまとめる。 4時間
第9回	実践編：模擬ワークショップ ② 企画のためのアイデア 模擬ワークショップを体験後、ワークショップ企画立案についてディスカッションを行う。	模擬ワークショップを企画書の視点から検討し、レポートにまとめる。 4時間
第10回	ワークショップの企画立案① 具体的内容、対象者の確定 ワークショップのテーマ、対象者をグループワークで議論し、策定する。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる 4時間
第11回	ワークショップの企画立案② 企画の詳細の決定と実施計画 ワークショップの企画概要の策定とコーディネートを経由してグループワークで議論し、実践にあたっての必要な情報の収集、考察を行う。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる 4時間
第12回	ワークショップの企画立案③ 実施に向けた準備作業 ワークショップに必要な事前準備を行う。	グループワークで必要な事前準備を行う。 4時間
第13回	ワークショップの企画立案④：実施 ワークショップを実施する。	講義内容の復習：実施状況をまとめる。 4時間
第14回	ワークショップのフィードバックとまとめ 実施したワークショップについて考察を行い、課題を抽出する。講義・参与観察・実践を通じた学んだ内容の総括を行い、生涯学習の今後の課題についてまとめる。	講義内容の復習：実践した内容を報告書にまとめる 4時間

912

授業科目名	博物館概論				
担当教員名	山下晃平				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館とは何でしょうか。今日ではミュージアムという言葉の方が馴染みがあるかもしれませんが。本科目では、学芸員養成課程として学ぶことになる博物館学各論の原論として、博物館の定義や種類、機能、法規を理解し、博物館運営に従事する学芸員の役割について学びます。その上で、国内外の博物館の歴史を踏まえながら、社会との関わりを通して変容する博物館の現状や様々な活動を知り、これからの博物館運営のあり方について考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館の歴史や機能、学芸員の役割についての基礎的知識の理解

目標：

博物館学の基礎知識を習得し、博物館の社会的な機能や学芸員の役割について自分の言葉で説明することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

様々な視点や領域からの情報を体系的に捉え直し、物事を批判的な姿勢で考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業中の私語の禁止。

成績評価の方法・評価の割合

各回の授業中課題（コメント作成）
30%

評価の基準

： 授業内容を理解し、自分の視点で捉え直して考察することができるか。

中間小レポート
20%

： 講義で得た情報を整理した上で、自分の関心に照らして批判的に論じることができるか。

期末試験
50%

： 講義で得た知識を適切に用いることができるか。またその知識を踏まえて客観的に論じることができるか。試験の素点に基づいて到達度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・稲村哲也編『博物館概論』（放送大学教育振興会、2019年）
 - ・栗田秀法編『現代博物館学入門』（ミネルヴァ書房、2019年）
 - ・大堀哲、水島英治編『博物館学Ⅰ―博物館概論＊博物館資料論』（学文社、2012年）
- その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講義毎に適宜資料を配布します。

近年、美術館、博物館に加え、国際美術展や芸術祭など多様な芸術の現場が点在しています。講義に加え、積極的に現場に向き、自身の情報・経験を更新しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前夜

場所： 授業の教室
 備考・注意事項： その場で相談のうえ別途日時を設ける場合もある。

授業計画		授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	イントロダクション：変貌するミュージアムと博物館学 今日の博物館の諸相及び博物館学の概要を理解する。	参考文献を参照し、博物館学とは何か、その目的や構成について考察しよう。/配布資料を参照し、要点となる語句とその意味について整理し直しましょう。 4時間
第2回	博物館学の目的・方法・構成 学芸員養成課程で学ぶ博物館学の概要と目的について学ぶ。	参考文献を確認しながら、博物館学の目的や体系について確認しよう。/配布資料を参照し、特に博物館学の研究区分とその目的についてまとめよう。 4時間
第3回	博物館の定義と関係法令 博物館の種類や区分など制度的な位置付けや関連する法令、社会的な役割について理解する。	参考文献を参照しながら、国内外の博物館の定義について調べておこう。/配布資料及び講義内容を整理し直し、博物館の定義や種類について理解を深めよう。 4時間
第4回	博物館と人 学芸員の役割について、その定義や実際の業務について学ぶ。	配布資料や参考文献を読み返し、学芸員の業務・役割について理解を深めよう。/また関心のある、あるいは紹介した博物館を実際に見学しよう。 4時間
第5回	諸外国の博物館の歴史 欧米及び海外での博物館の成立とその変遷について学ぶ。	参考文献を参照し、博物館の誕生に関わる社会的条件について考察しよう。/配布資料や参考文献を読み返し、博物館の歴史とその背景について理解を深めよう。 4時間
第6回	日本の博物館の歴史 諸外国に対して日本における博物館の成立とその変遷について学ぶ。	配布資料や参考文献を読み返し、博物館の歴史とその背景について理解を深めよう。/特に海外と比較した場合の日本の特徴について考察しよう。 4時間
第7回	博物館の現状と鑑賞 多様化する博物館機能を学び、博物館と鑑賞者との関わりについて考察する。	配布資料や講義内容を整理し直し、今日の博物館機能について理解を深めよう。/特に博物館の今日的な取り組みに注目し、実際に博物館を見学してみよう。 4時間
第8回	博物館とコレクション1：収集・保存 資料の収集・保存の基本的なあり方について学ぶ。	参考文献を参照し、収集・保存のプロセスについて確認しておこう。/配布資料や参考文献を読み返し、コレクションすることの社会的意義について理解を深めよう。 4時間
第9回	博物館とコレクション2：研究・展示 博物館機能としての研究・展示の基本的なあり方について学び、資料を所蔵すること意義について考察する。	配布資料や参考文献を読み返し、博物館における研究・展示について理解を深めよう。/また特に作品保存の観点から払われるべき留意点についてまとめ直そう。 4時間
第10回	博物館運営：教育普及 博物館運営における教育普及活動の意義や手法について学ぶ。	配布資料を読み返し、拡大する教育普及の役割についてまとめ直そう。/また特定の博物館のワークショップに関する資料を確認し、参加してみよう。 4時間
第11回	博物館と情報1：資料論へ向けて 博物館運営における情報・メディアとの関わりについて学ぶ。	博物館運営とメディアとの関わりについて、自身の鑑賞経験に照らして考察しておこう。/配布資料を読み返し、情報やメディアの意義について理解を深めよう。 4時間
第12回	博物館と情報2：芸術資源とアーカイブ 今日のアーカイブの諸相を踏まえ、博物館資料の保存・修復の意義について考える。	アーカイブズとは何かについて事前に調べておこう。/配布資料やWebサイトを参照し、アーカイブの意義についてまとめ直そう。 4時間
第13回	現代博物館と地域コミュニティ 拡張する博物館機能と地域連携の視点から、博物館教育のあり方について考える。	配布資料を読み返し、博物館と地域との関わりについて理解を深めよう。/またこれまでの講義を踏まえて博物館運営の展開について整理し直そう。 4時間
第14回	エピローグ：現代社会と拡張する博物館機能 これまでの博物館運営や学芸員の役割を総括し、現代社会における博物館の意義について考える。	配布資料を通して講義内容の振り返りを行い、博物館学の構成や博物館の社会的役割についてさらに考察を深めよう。/また現代社会の諸相に照らした博物館運営の今後の可能性についても考察してみよう。 4時間

授業科目名	博物館経営論				
担当教員名	嶋本尚志				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	寺院での学芸員業務を経験。展覧会の企画・実行や事務を担当。(全14回)				

授業概要

博物館が現在直面している課題や社会の中で果たすべき役割について考えていく。はじめに博物館の歴史を概観し、それぞれの時代どのような役割を果たしてきたかをみていきたい。その際には日本だけでなく、欧米やアジアの博物館史をあわせてみることで、各地域での特徴を比較する。次に、博物館経営（運営）に関する、制度・財政・広報・建築・組織といった様々な観点から、博物館をとりまく現状や課題をみていきたい。特に現在は地域との連携が重要であり、地域にとって博物館はどのような存在なのかを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館や学芸員に関する知識。

目標：

博物館・学芸員の基本的な知識や課題を理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現状から問題点をみつけ、対応を考えられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のコメント	30%	： 毎回の講義内容に即した事項に対し、自身の意見が述べられているかという点で評価します。
試験（期末レポート）	70%	： 博物館・学芸員の基本的な知識や課題についての理解度を期末のレポートにより評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。自主的な博物館見学などの「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後
 場所： 授業を行う教室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画

回数	授業内容	復習内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	博物館の現在 博物館が置かれている今日の状況について、問題点や求められる社会的役割や課題を考える。	博物館の基本的知識を復習	4時間
第2回	社会的役割からみる博物館史 1 欧米・アジアの博物館	世界史の復習	4時間

	ヨーロッパ・アメリカ・アジアの主要な博物館、大英博物館・ルーブル美術館・スミソニアン博物館・故宮博物院などの博物館を中心に、どのように成立したかを、歴史的・社会的背景の中で概観する。		
第3回	社会的役割からみる博物館史2 日本篇1(古代から近世) 日本の古代から近世までの歴史の中で、博物館的活動がどのように行われていたかを概観する。	古代から近世の日本史の復習	4時間
第4回	社会的役割からみる博物館史3 日本篇2(近代) 明治以降の近代的博物館の成立や現在までの社会的役割の変化の過程・背景を概観する。	近代の日本史の復習	4時間
第5回	博物館のマネジメント 博物館の運営に関して、ミュージアムマネジメント、マーケティング、自己評価などの活動がどのように行われているかをみて、博物館の果たす役割を考える。	実際の博物館がどのような活動を行っているかを調べる	4時間
第6回	博物館の組織とミュージアムネットワーク 学芸員をはじめとする博物館の組織のあり方について、具体例を紹介する。各地で行われている博物館同士のネットワークの特徴をみる。	博物館の組織についての復習	4時間
第7回	ミュージアムショップ 博物館の財政の考え方、博物館におけるミュージアムショップの役割について考える。	博物館の財政とショップについての復習	4時間
第8回	建物としての博物館 博物館の施設・立地・建築物としての特徴や文化財を利用する場合など、その特徴や機能を考える。	博物館建築の特徴を復習	4時間
第9回	文化財行政と博物館に関する制度 国や自治体の文化財に関する諸制度や博物館に関わる法律から、行政が博物館に何を求めているかを考える。	文化財の種類や区分の復習	4時間
第10回	博物館の広報活動 博物館が行っている広報活動について、特別展の時だけでなく日常どのようにおこなわれているか。	博物館の広報活動について(特別展時と平常時)の復習	4時間
第11回	博物館の危機管理 火災・盗難などの日常的なトラブルや天災などの災害、博物館に関する事件を通じてみた危機管理について。	博物館の危機管理についての復習	4時間
第12回	地域社会と博物館1 近代京都の博覧会 明治期を中心に行われた京都博覧会の特徴や展開から、地域での博物館活動の取り組みのあり方を考える。	地域博覧会に関する復習	4時間
第13回	地域社会と博物館2 地域に根ざす博物館活動 地域社会との連携や地域にねざす博物館活動の事例紹介を通じ、地域と博物館の関係を考える。	地域の博物館活動に関する復習	4時間
第14回	エコミュージアムの考え方 エコミュージアムの概念や日本や海外での事例紹介から、博物館の外に広がる博物館活動について。	地域の特性と博物館について調べる	4時間

授業科目名	博物館資料論				
担当教員名	安見一葉				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	関西の博物館相当施設にて、資料を活用した教育普及や書籍の発行、現代作家による展覧会の企画を経験（全14回）				

授業概要

博物館の資料について様々な角度から理解を深め、博物館資料に関わる知識を得る。具体的には、資料の収集・整理・保管などに関する理論と方法を学び、あわせて博物館の調査研究活動に関する理解を得る。どのようなものが博物館資料として収集されるのか、まずはその母体ともいえる文化財の概念について考え、続いて博物館における収集・整理・保存の過程について概観する。また、博物館資料を社会教育においてどのように活用できるかを考え、博物館資料の博物館活動における位置づけを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	博物館資料や文化財に関する知識	博物館資料や文化財についての基礎的な知識を得、博物館資料とは何かを理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	博物館資料の扱い方の基礎知識	様々な博物館資料を扱う際の心構えや道具、方法を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		博物館資料をどのように活用するかを考えることができる。
2．DP5. 計画・立案力		博物館資料を活かすための企画を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

授業内の課題

評価の基準

： 授業内容ごとに設定する課題に対する取り組み方と成果物を評価する。

50%

定期試験

： 博物館資料に関する知識の修得や理解度について評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

博物館資料取扱いガイドブック—文化財、美術品等梱包・輸送の手引き—〈改訂版〉日本博物館協会 2012年
博物館学Ⅰ：博物館概論・博物館資料論（新博物館学教科書） 発行：学分社 2012年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均4時間の授業外学修が求められます。その回の授業内容を復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。またグループワークでは、積極的に自身の意見を話すように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に答えます。

授業計画		授業外学修課題にかかかる目安の時間
第1回	「博物館資料」とは何か 博物館の中の「博物館資料」とは何かを博物館の5つの機能から学ぶ。	4時間
第2回	博物館の概要と文化財 博物館資料の概要について学び、文化財の種類についてまとめる。	4時間
第3回	博物館資料収集の理念 博物館資料の収集の理念について学ぶ。	4時間
第4回	博物館資料の分類・整理 人文系と自然系の分類と整理について学ぶ。	4時間
第5回	博物館資料の調査・研究① 人文系・自然系の調査・研究について学ぶ。	4時間
第6回	博物館資料の取り扱い 博物館における資料の取り扱いの意義について学び、実際に資料を使用しながら必要な資材や心構えなどを学ぶ。	4時間
第7回	博物館資料の保存・修復 博物館における資料保存・修復する意義について 基本を学ぶ。中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバック。	4時間
第8回	博物館資料の活用 資料の活用方法を3つに分け、それぞれの特徴を学ぶ。	4時間
第9回	館種別調査の方法 それぞれの施設の特徴や特性を学び、博物館見学にむけて収蔵資料調査を行う。	4時間
第10回	施設の特徴をまとめ、次回の見学に生かせるよう復習する。 博物館の見学を行い、資料がどのように展示され活用されているのかを学ぶ。	4時間
第11回	資料の活用の課題発見（博物館見学） 博物館の見学を行い資料の役割をさまざまな側面から知り、調査資料にまとめる。	4時間
第12回	博物館資料と活用方法—博物館の課題— 博物館資料と活用方法をするにあたっての課題と、その解決を考える。	4時間
第13回	博物館資料における問題点と解決策の提示—これからの博物館と資料— 博物館見学から資料をどのように活用していけばいいか具体的な提案を考え、資料作成と発表を行う。	4時間
第14回	「博物館資料」の可能性 博物館で行われている様々な取り組みを紹介し、これまでの内容を復習する。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	4時間

授業科目名	博物館資料保存論				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館では、博物館で収集した資料を良好な状態で保存するために様々な努力が行われている。本科目では、これらの博物館資料を保存するための科学的的方法に関する知識の習得を図る。資料の材質と劣化要因を知り、それらの資料に適切な保存環境や環境づくりについて学ぶ。あわせて、災害などに対する危機管理や、資料の活用と保存修復についても学ぶ。また、博物館資料を含む文化財を取り巻く国内外の様々な問題を取上げ、文化財を保存する難しさについても言及する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館資料の保存に関する基礎的知識

目標：

博物館資料のための適切な保存環境づくりを考えることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

資料保存のためにどのような解決すべき課題があるかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験

： 博物館資料の保存に関する知識の修得や理解度について評価する。

70%

受講態度

： 知識取得に対する意欲や積極性を評価する。ルーブリックに基き評価し点数化する。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

4年生の「博物館実習」の土台となる授業であり、基本的な知識を十分に獲得しておいてほしい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に対応。

授業計画

： 授業外学修課題にかかると目安の時間

第1回	なぜ博物館資料を保存するのか—目的と意義— 博物館資料を保存する重要性について考える。	ノートと配布資料を読み直し、なぜ資料を保存する必要があるのか復習する。	4時間
第2回	資料の伝統的保存方法 正倉院宝物がどのように保存されてきたのかについて学ぶ。	正倉院の歴史と正倉院宝物について復習する。	4時間
第3回	資料保存の環境と条件（1）温度と湿度 資料の劣化を防止するために博物館が行っている温湿度管理について学ぶ。	配布プリントを読み直し、資料の劣化を招く温湿度について復習する。	4時間
第4回	資料保存の環境と条件（2）照明と光 資料の劣化を防止するために博物館が行っている照明の工夫について学ぶ。また、照明の光の知識についても学ぶ。	授業のノートと配布プリントを確認し、博物館の照明について復習する。	4時間
第5回	資料保存の環境と条件（3）生物被害とIPM 資料の劣化・破損を防止するために博物館が行っている虫害対策について、IPM（総合的有害生物管理）を中心に学ぶ。	全国の博物館で行われているIPMの実例を確認し、授業内容に対する理解を深める。	4時間
第6回	資料保存の環境と条件（4）空気汚染 文化財に対する空気汚染の影響を概観し、資料の劣化を防止するために博物館が行っている空調管理について学ぶ。	全国の博物館の空調管理の実際について確認し、授業内容に対する理解を深める。	4時間
第7回	資料保存の環境と条件（5）災害①被災資料の救出と修復 自然災害の際にどのように資料を救出しその保全を図るのかについて学ぶ。	授業内容をふまえ、被災資料の救出と修復に関する問題点について考える。	4時間
第8回	資料保存の環境と条件（6）災害②資料の被災防止と対策、保存活動 資料を災害から守るため、日頃からどのような対策を講じるべきなのか、実例から学ぶ。中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバック。	授業内容をふまえ、全国のどのような組織が資料の被災防止活動に取り組んでいるのか調べる。	4時間
第9回	資料の保存処理 文化財の劣化・破損を防ぐため、主に埋蔵文化財に施される保存処理について学ぶ。	授業内容をふまえ、全国の埋蔵文化財の保存に関わる施設でどのような資料の保存が行われているのか調べる。	4時間
第10回	資料の保存修復 資料の修復について、原則と課題について学ぶ。	授業内容をふまえ、資料の保存修復の様々な実例を調べる。	4時間
第11回	博物館資料保存の課題（1）文化財の保存について 文化財の保存に関する課題について、各地の実例を取り上げ考える。	授業で取り上げたもの以外に、日本国内の実例を探し、何が問題となっているのか調べる。	4時間
第12回	博物館資料保存の課題（2）文化財返還問題 文化財を取り巻く問題について、国際的視点から考える。	授業で取り上げたもの以外に、どのような文化財返還問題があるのか調べる。	4時間
第13回	博物館資料の輸送・梱包 資料の破損要因になりかねない輸送の注意点や、梱包方法について学ぶ。	授業内容をふまえ、過去の特別展で行われた大掛かりな資料の輸送について調べる。	4時間
第14回	アーカイブ・デジタルアーカイブ アーカイブについて確認し、日本におけるアーカイブの歴史を概観する。また、文化財のデジタル情報での記録・保存について学ぶ。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	ノートと配布資料を読み直し、日本のアーカイブの歴史について復習する。また、授業内容をふまえ、各博物館のデジタルアーカイブについて調べる。	4時間

授業科目名	博物館展示論				
担当教員名	中谷至宏				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美術館学芸員として33年間の勤務経験を持ち、特に「展示」に関する思考と実践を重ねてきた。(全14回)				

授業概要

美術館における展示は、美術館の成立期から今日まで、美術自体の歴史、あるいは美術および美術館の社会における位置付けの変化のなかで、歴史的展開を示してきた。その歴史的変遷と意味を理解した上で、今日求められる展示の在り方を考察する。美術館における展示論は、展示物をより良く見せるための手法ではなく、展示者の意図を提示する一つの表現でもある。本講義では表現としての展示を如何に為し得るかを、理論学習と実践を通して考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

作品展示に関する歴史性と文化の多様性による相違を理解し、個々の展示行為が持つ意味を的確に理解する能力を身に着ける。
展示における意味の生成が、色彩、配置、照明等様々な要素によって総合的に成り立っていることを理解する。

目標：

作品展示が美術の問題に留まらず、広くプレゼンテーション全般における意味の生成につながることを理解することができる。
作品展示と、広いプレゼンテーションの実践との共通点を理解した上で、意図を的確に伝達するための具体的手法を習得することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

日常的な行為のなかで、展示による意味の伝達と関連する事柄を自分自身で見出すこと。
展示が自らの表現として伝えるためには、総合的な構想力が必要であることを理解した上で、そのための設計能力を獲得することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

試験(期末レポート)

80%

授業中課題

20%

評価の基準

： 課題の意図の理解度、言語的伝達能力、および総合的な設計能力のレベルに基づく。

： 課題の意図の理解度、発想力の独自性、言語表現能力の水準に基づく。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業終了後、またはメールでの質問に応じます。アドレスは授業時に提示します。

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	イントロ 展示とは何か 博物館・美術館における展示を考える前に、広く他者にモノや情報を提示することの意味を考えるきっかけとする。	特に印象に残った展示を思い起こしメモに起こす。 4時間
第2回	美術館における展示の歴史 1 欧米 欧米の美術館の歴史と展示との関係を概観する。	欧米の美術館のウェブページを閲覧し、展示の特性を押さえる。 4時間
第3回	美術館における展示の歴史 2 日本 日本における固有の美術館・博物館の成立史とそこにおける展示のありかたを学ぶ。	博物館の美術展示の特色をメモ書きする。 4時間
第4回	美術館の展示空間 1 壁面 美術館における展示を考える際の基本的要素としてまず壁面と展示の関係を考える。	美術館の作品展示における壁面の色彩について考えをまとめる。 4時間
第5回	美術館の展示空間 2 ケース 美術館における展示を考える際の基本的要素としてのケースという仕器と展示との関係を考える。	展示ケース内の展示と壁面展示の相違点を記述してみる。 4時間
第6回	展示構想 理論と実践 展示を実践するにあたり、伝えたい=表現したい内容を整理し、適切な手法を導き出す。また展示の実践に必要な現実的な課題を確認する。	絵画展示における配置について順路の観点から考察し、また実際の展示に必要な器具類を検索しておく。 4時間
第7回	展示設計 作品配置 1 理論 配置に関する諸相を提示し、方法論を学ぶ。中間ルーブリックの実施、学生ヘブライドバック。	ウェブページ等で展示実例の写真を見つけ出し、自分自身で再配置してみる。 4時間
第8回	展示設計 作品配置 2 実践 設計の上での要点を整理し、プランを確定する。	実践で取り組んだ自分の配置プランを机上で再検討してみる。 4時間
第9回	展示設計 照明 1 理論 展示照明に関する基本要素を学ぶ。	美術館展示照明の機材の種類をウェブページで閲覧し、比較対照してみる。 4時間
第10回	展示設計 照明 2 実践 実習を含め、照明に関する課題を実感してみる。	街で目にするディスプレイを照明方法に着目して観察し、その特徴をメモ書きする。 4時間
第11回	作品設置 1 理論 作品設置に関する諸要素を総合的に組織する方法を学ぶ。	実際に目にした美術館展示を例にとり、自分なりの改善点を見つけ出す。 4時間
第12回	作品設置 2 実践 作品設置の現場での課題を知り、実践のための能力を養う。	実践を通して自分にとって新たな発見となった点を言葉にしてみる。 4時間
第13回	情報提示 1 理論 言語、映像等展示に関する情報提示の方法と問題点を学ぶ。	情報提示の適切な量について自分の考えをまとめる。 4時間
第14回	情報提示 2 実践 言語での情報提示の実践の中で課題を見出す。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	他の学生の実践のなかで、自分にはない特性を見つけ出し反芻する。 4時間

授業科目名	博物館教育論				
担当教員名	水谷 亜希				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教育普及担当の研究者として博物館に勤務しています。ボランティアの育成や運営、ワークショップや展示の企画、印刷物やウェブコンテンツの作成など、様々な教育活動に携わっています。(全14回)				

授業概要

博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）は、博物館を利用する人々の自由な学びを助け、深めるための活動です。近年、博物館活動の中でも重要視されるようになってきました。本授業では、日本や諸外国における博物館教育の歴史と意義を学ぶと共に、実践に必要な知識と方法を習得することを目指します。そのために、現場で行われている教育プログラムを体験し、資料をもとに考察・ディスカッションを行い、最終的には自身で教育プログラムを企画し、発表を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）についての知識

目標：

博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）が、具体的にどんな活動を含み、誰を対象とし、何を目的としているのかを理解する。

- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

実践に必要な基本的な考え方や、手法に関する幅広い知識を習得する。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見

講師が提示する資料や、自分で収集した資料から、博物館教育の課題を発見できる。

- 2．DP5. 計画・立案力

教育プログラムの実践のために、どのようなもの・人が必要で、どのような調整が必要か、計画的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各回の授業内小レポート	30%	： 各回の授業内容を踏まえ、自身の考えが述べられているかを評価します。
教育プログラムの企画・発表	30%	： 授業で学んだことをもとに、目的が明確で、実践可能な、独創的な教育プログラムが企画できているかどうかを評価します。
試験（期末レポート）	40%	： 授業で学んだことをもとに、課題に対して必要な情報収集・考察を行い、自分の考えを述べられているかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに適宜資料配布・文献紹介を行います。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中に問いかけをしたり、教育プログラムの体験や、グループワークの時間を設けたりしますので積極的に発言をしてください。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。自主的な博物館見学、教育プログラムへの参加など「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業終了後、またはメールでの質問に応じます。アドレスは授業時に提示します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>博物館教育とは何か</p> <p>「博物館教育」とは何を指すのか、その意義と理念、国内外での歴史と実践について学びます。全14回の講義の概要と成績評価の方法についても説明します。</p>	<p>自分の記憶にある一番古い「博物館体験」について思い出し、何が印象に残っているのか、なぜ印象に残ったのか、今の自分への影響の有無を考え、文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>博物館教育の双方向性（対話型鑑賞／ハンズ・オン）</p> <p>博物館教育は、一方的に情報を提示するだけのものではありません。主に「対話型鑑賞」や「ハンズ・オン」を例に、博物館教育の双方向性について学びます。</p>	<p>授業で紹介する「対話型鑑賞」や「ハンズ・オン展示」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>教育活動の手法1（ギャラリートーク／音声ガイド／印刷物）</p> <p>現場で行われている教育活動のうち、主に「ギャラリートーク」「音声ガイド」「印刷物」について取り上げ、情報を分かりやすく伝え、興味を引き出す具体的な技術について学びます。</p>	<p>授業で紹介する「ギャラリートーク」「音声ガイド」「印刷物」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>教育活動の手法2（ワークショップ／デジタル技術の活用／子ども向け展示）</p> <p>現場で行われている教育活動のうち、主に「ワークショップ」「デジタル技術の活用」「子ども向け展示」について取り上げ、情報を分かりやすく伝え、興味を引き出す具体的な技術について学びます。</p>	<p>授業で紹介する「ワークショップ」「デジタル技術の活用」「子ども向け展示」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>人材養成の場としての博物館</p> <p>職員とは異なる立場（ボランティア等）で博物館に関わり、専門的な技術を磨いたり、その後の人生に技術を役立てたりする人達があります。人材養成の場としての博物館について学びます。</p>	<p>授業の内容を踏まえ、自分なら博物館とどのように関わることができるか、どんな活動をするすることができるか考え、文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>博物館と学校教育</p> <p>博物館教育と学校教育の違いについて学ぶとともに、両者の連携事業のメリットや課題についても、具体的な事例をもとに考察します。</p>	<p>自分の体験をもとに、学校での学びと、博物館での学びの違いについて考察し、文章にまとめる。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>異分野との連携</p> <p>博物館の中にも、歴史・美術を扱う人文系の博物館と、自然科学などを扱う自然科学系の博物館があります。分野を超えて連携し、教育活動を行う具体例を取り上げ、その意義を考察します。</p>	<p>異なる分野の博物館が協力することで、どのような企画が実施可能か、実在する博物館を例に自分で具体的なプランを立て、図や文章でまとめる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>地域との連携</p> <p>規模の大小、設置者の種類に関わらず、博物館は立地している地域の人々との関わりなしには存在できません。地域の人々や団体、企業などと連携して教育活動を行う具体例を取り上げ、その意義を考察します。</p>	<p>博物館が地域の人々と協力することで、どのような企画が実施可能か、実在する博物館を例に自分で具体的なプランを立て、図や文章でまとめる。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>複製の活用と課題</p> <p>博物館の教育活動において利用される「複製」について、その種類と、活用方法、メリットや課題について、具体的な事例をもとに考察します。</p>	<p>「実物」と「複製」、それぞれの特性と役割について、授業の内容をもとに考察し、自分の考えを文章でまとめる。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>教育プログラムの企画</p> <p>これまでの授業をもとに、実在する博物館の展示、もしくはその収蔵品の一つを取り上げ、それをテーマとした教育プログラムを企画します。</p>	<p>次の授業での発表に向け、博物館の見学や、本やインターネットを用いた資料収集を行い、企画書を完成させる。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>教育プログラムの発表</p> <p>作成した企画書をもとに、教育プログラムの発表を行います。他の人の発表に対して、うまくできているところ、改善点の提案などのコメントを行います。</p>	<p>授業中のコメントを踏まえ、自身の作成した企画書の改定を行う。</p> <p>4時間</p>

第12回	<p>海外の事例</p> <p>博物館教育が早くから盛んだった欧米や、その他諸外国の例を取り上げ、日本の博物館教育との比較検討を行います。</p>	<p>海外での博物館教育について、授業で取り上げた以外の館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。</p>	4時間
第13回	<p>博物館教育の現在の課題</p> <p>感染症の流行など今日の博物館が直面する課題について、博物館教育の分野ではどのように対応しようとしているのか、具体的な事例を取り上げ、考察します。</p>	<p>オンラインで実施されている博物館の教育プログラムについて情報収集し、体験可能であれば体験・参加する。</p>	4時間
第14回	<p>振り返りとこれからの展望</p> <p>これまでの授業内容について振り返りを行うとともに、これからの博物館教育や、博物館そのものの在り方について、考察します。</p>	<p>100年後の博物館はどうなっているか、本授業や他の授業で得た知識や経験をもとに考え、図や文章にまとめる。</p>	4時間

授業科目名	博物館情報・メディア論				
担当教員名	嶋本尚志				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	寺院での学芸員業務を経験。展示会の企画・実施や事務などを担当。(全14回)				

授業概要

博物館は多くの情報を持っており、その情報をどのように活用していくかが重要な課題である。また、最近の展示や情報活動では映像メディア・マルチメディアといった多くのメディアを活用している。博物館が社会に向けて情報を的確に発信するためには、それらのメディアに関する知識も必要であるといえる。本講義では、展示活動などの博物館に関する情報活動やメディアのあり方、さらには一般的な情報リテラシーといったことなどについて、その特徴や問題点などを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

博物館・学芸員に関する知識を身につける。

目標：

情報リテラシーをみにつけ、正しく情報の発信や分析が行えるようになる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

情報社会の中で、批判的に物事を考えられるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

期末試験

評価の基準

： 博物館学芸員に必要な情報リテラシーや情報発信・管理の考え方が身につけているかという点を、期末レポートで評価します。

70%

コメントシート・小レポート

： 毎回の講義内容に関する事項について、自身の考えが述べられているかという観点から評価します。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業を行う教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画

第1回	博物館と情報社会 社会との関わりの中で、博物館の情報活動がどのように行われているかや情報の基本について	博物館の情報活動や情報についての復習	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	--------------------	-------------------------

第2回	博物館活動と「見る」教育 視聴覚メディアや博物館教育との関わりについて	博物館における視聴覚メディア、教育についての復習	4時間
第3回	メディア発達の歴史 文字・写真・映像などのメディアの発達の展開	メディア発達の歴史についての復習	4時間
第4回	認識と記憶のメカニズムとメディア 認識と記憶のプロセスや特徴から、コミュニケーションで起こりうる問題点について	人間の認識と記憶についての復習	1時間
第5回	教育メディアとしての情報機器 博物館・学校などの教育の場での情報メディアの利用法やその効果について	教育メディアとしての情報機器についての復習	4時間
第6回	ネットワーク社会 インターネットなどネットワークを中心とする社会の特徴について	ネットワーク社会についての復習	4時間
第7回	メディア・リテラシー1 情報リテラシーの基本 情報の受け取り方や情報リテラシーの考え方について	情報リテラシーの基本についての復習	4時間
第8回	メディア・リテラシー2 コンピュータとインターネット インターネットの仕組みや特徴、知的財産の保護について	コンピュータとインターネットについての復習	4時間
第9回	メディアリテラシー3 ネットワーク時代のメディアリテラシー 諸外国のメディア教育の事例紹介、メディアリテラシーの実践	メディア教育についての復習	4時間
第10回	博物館情報の管理と公開 博物館の情報発信のあり方や課題	博物館の情報管理についての復習	4時間
第11回	情報の視覚化 情報の視覚化について、ピクトグラムなどの事例紹介	情報の視覚化についての復習	4時間
第12回	情報発信としての博物館展示1 博物館展示の考え方 博物館の展示の考え方や展示の種類・特徴について	博物館展示についての復習	4時間
第13回	情報発信としての博物館展示2 展示空間と情報発信 博物館展示の構成や利用者への情報提供について	博物館の情報発信についての復習	4時間
第14回	博物館展示と視聴覚メディアの利用 博物館で利用されているメディアの事例や利用者の反応、博物館でのメディア利用の課題について	博物館で利用されるメディアに関する復習	4時間

914

授業科目名	博物館実習				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館実習は、学内での授業と、夏休みもしくは授業期間内に行なわれる数日間の館園実習とからなる。授業は、①資料の取り扱いに関する実習、②博物館の見学、③特別展の企画の3つを中心に行う。①は学芸員として身につけておくべき基本的な資料の取り扱いや業務について学習する。②は様々な目的と理念をもつ博物館の見学を行ない、比較考察をする。③は企画書作り、ポスター制作・発表までを行う。この授業は、実習博物館での実習の事前指導でもあり、受講態度には厳しさが求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

資料の取り扱いに関する知識

目標：

博物館の役割や業務について理解することができる。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

実習の準備から片づけまで、受講生で協力して行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバックを行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

受講態度（発表含む）

60%

授業内の課題

20%

館園実習

10%

試験（期末レポート）

10%

評価の基準

： 知識の習得に対する意欲や積極性を評価する。また、授業内で修得した知識に基づき資料を正しく取り扱うことができているかを評価する。ルーブリックに基づき評価し、点数化する。

： 授業内での発表や課題のレポートから、博物館の役割や業務についてどの程度理解できたかについて、評価する。

： 積極的な態度で実習に参加できたかを評価する。

： 博物館の役割や業務への理解をふまえて、自身の実習についてふりかえり、レポート作成をする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は3単位の科目であるため、全体で135時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

実習であるため、出席厳守。見学日は、週末に行く場合もあるので、見学日時発表後にスケジュールを確認しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に対応する。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	博物館実習の心構え 博物館実習に際しての心構えについて述べ、必要な事柄を整理する。また、各学生の実習館についてヒアリングし、リサーチを進める。	これまで習った博物館に関する知識について復習する。	4時間
第2回	博物館資料の取り扱い―掛け軸・巻物― 掛け軸・巻物の取り扱いについて実習を通して学ぶ。	掛け軸・巻物の部位の名称、取扱いについて配布プリントで復習する。	4時間
第3回	拓本実習 拓本の採取方法について実習を行い、習得する。	拓本の採取方法について、配布プリントで復習する。	4時間
第4回	展示企画書作成実習 展示企画について学び、課題として提出する展示企画書の作成方法について説明する。	展示企画書を作成する。	4時間
第5回	博物館・美術館見学①―文化財保護を考える― 遺跡の発掘・保存を紹介する博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第6回	裏打ち実習 拓本実習で採取した拓本を補強するための裏打ち実習を行う。	裏打ちについて、授業内容を復習する。	4時間
第7回	博物館・美術館見学②―地域に根ざした博物館― 地域の歴史博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第8回	絵巻を読む（1）縁起絵巻 縁起絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。 中間ルブリックの実施、学生ヘフィードバック	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	4時間
第9回	絵巻を読む（2）物語 物語絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	4時間
第10回	10. 博物館・美術館見学③―研究機関の博物館― 研究を主要な役割として担う大学共同利用機関の博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第11回	博物館資料の取り扱い―箱・茶道具― 茶道の歴史を確認し、茶道具と茶道具を入れた箱の扱い方について実習も交えて学ぶ。	配布した資料を中心に、茶道具と箱の扱い方について復習する。	4時間
第12回	博物館・美術館見学④―総合博物館― 人文科学系と自然科学系の両方の機能を有する博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いとめる。	4時間
第13回	博物館資料の取り扱い―和本― 和本の構造と修復方法を理解するために、和本を作る実習を行う。	配布した資料を中心に、和本の構造と修復方法を復習する。	4時間
第14回	発表（展示企画・広報ポスターと見学のまとめ） 各自で企画した特別展の内容とその広報ポスターについて発表する。また、4回の博物館見学に関して、各自の設定したテーマに沿った発表をし、情報のまとめを行う。最終ルブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	ポスター・発表レジメを作成し、発表内容について準備を行う。	4時間